

八雲町育成牧場運営協議会 会議録

■日時 令和5年4月24日（月） 13:30～14:30

■場所 八雲町役場3階議員控室

■出席

運営委員 安藤 勉、佐藤 正之、都築 岳志、前川 眞由美、寺田 裕、
佐藤 貴宏（渡島農業普及センター渡島北部支所地域係長）、
澤村 建（北海道農業共済組合みなみ統括センター道南東
部家畜診療所長）

指定管理者 株式会社青年舎

吉田 邦夫代表取締役社長、荻本 正マネージャー

八雲町 成田副町長、石坂課長、上野課長補佐、高嶋係長、角屋技師

■顛末

1. 挨拶（八雲副町長 成田 耕治）

令和4年度八雲町育成牧場の運営については関係機関、皆様のご協力により無事完了することができ、心より感謝申し上げます。昨年度は草地更新を行い、預託頭数については令和3年度より徐々に増えつつある。引き続き、町内農家の需要に答えていくことが重要と考えているので、ご支援賜りたい。本日の協議についても、運営委員の皆様には忌憚のないご意見賜りますようお願い申し上げます。

2. 報告事項

○令和4年度運営状況について

・令和4年度決算（指定管理者説明）

委員より異議なし

・繁殖管理状況（指定管理者説明）

委員より異議なし

・疾病発生状況（指定管理者説明）

委員） 小型ピロプラズマ症が増加した理由は。

管理者） 出荷制限の関係から、イベルメクチンを投与できない牛がいた。結果としてダニを増やす要因になってしまったかもしれないが、明確な原

因はつかめていない。今年度は春からのバイチコール使用で予防していく。

委員) 蹄病の増加について、原因と今後の対策は。

管理者) 8月、9月に趾間腐爛による治療が増えた。雨によるぬかるみが原因と考えられる。程度の軽いうちに治療することで対応していく。

委員) ピロプラズマが発症していない間も継続してバイチコールを使用し、ダニを駆除することが重要。ピロが治まるまで2～3年は見込んだ方がいい。

事務局) 全体的にピロが増加傾向にあるのか。

委員) そのようなことはない。一般的には征圧できている病気だが、公共牧場で流行しやすい。ダニが媒介する病気なので、継続して殺ダニ剤を使用していくことが重要と考える。

3. 協議事項

○令和5年度の運営について

・収支計画 (指定管理者説明)

委員) 入牧頭数について昨年度より若干の増加を見込んでいるとのことだが、その理由は。

管理者) 例年入牧してもらっている農家に加え、新規の申し込みもあったため、そのように見込んでいる。

委員) 収入の補助金について、エコ畜事業による補助金とのことだが、どのような事業か説明していただきたい。

管理者) 飼料作物作付面積を確保しながら温室効果ガス排出削減に取り組んでいる酪農・肉用牛経営に対し、交付金が交付される事業(飼料生産等に係る温室効果ガス排出削減: 15,000円/ha以内、有機飼料の生産: 45,000円/ha以内)。令和4年度については有機飼料の生産が認められず、15,000円/haの交付となったが、今年度は有機飼料の生産と温室効果ガス削減の取り組みで補助申請している状況。

・道営草地畜産基盤整備事業 (指定管理者説明)

委員より異議なし

・入牧日 (指定管理者説明)

管理者) 牧柵等の整備は早く準備が進んでいる。BVD検査について、5月の連休明けに結果がでる予定。結果が出次第、すぐ入牧できるよう段取り

を進めていく。

体重測定については、5月17日頃に実施できるよう、関係機関と協議していく。

4. その他

委員) 北里大学の牛は有機認証の草地で飼養しているとのことだが、その他の草地について、今後有機草地を増やしていくのか？

管理者) できるところは有機草地にしていきたい。牛の健康などを考えたうえで、もともと化学肥料を使用しない管理はしていた。一部有機草地にするより、全体を有機草地にする方が管理的には容易。

委員) 有機草地を育成牧場の売り文句にできないのか。

委員) 有機認証を受けるのはハードルが高い一般農家にとって、育成牧場が有機管理をしている、ということは特段メリットにはならない。

管理者) 昔、化学肥料を大量に使用していた時に体調不良の牛がでてきたため、草地の一部分について化学肥料の使用を中止したところ、牛の状態が良くなったという経緯があった。いい状態で牛を飼うために、有機管理になっていった。

委員) 化学肥料が高騰している中で、そのような管理は追い風となる。このようなメリットを生かし、公共牧場を盛り立てていくことはできないか。北里大学の利用依存度が高いように思うが、他の農家が参入してもらうようにするにはどうすべきと考えるか。

管理者) 安定して良い成績を維持していくことが大事。自農場で飼うよりメリットがあると思っただけのような管理を目指す。

委員) そのメリットを広めるために、具体的に何をやるのか。株式会社青年舎と役場がタッグを組んで、もっとアピールしていくべきではないか。

委員) 現在、飼料代が高騰しており、自農場で飼養するには経費がかかる。だからといって入牧するのにも料金がかかる。例えば、牛1頭預けてもらえれば、ロール草1個買いとることで実質入牧料金無料などの取り組みはどうだろうか。または、農協と相談して、下牧後そのまま市場へ出荷するなどの対応もとれないだろうか。離農を考えている人でも少しでも長く、楽に飼い続けられるような体制があれば良いのでは。

管理者) 月齢、品種によって牧草の食い込み量がかなり違う。料金改定も考えなければならない。

委員) 飼料が高騰している中、育成牧場の利用はコストが省けるし、手間も

省ける。今まで育成牧場を利用したことが無い農家、新規就農者への新規開拓もまだまだ可能性があるのではないか。

委員) 牛の運搬が大変なら、ピックアップサービスなど提供すればよいのでは。

管理者) 通常価格より安い料金で、日程調整して運搬してもらっている。

委員) その点は育成牧場の売りになるだろう。本日は様々な意見が出て、有意義な協議会であった。今後も八雲町育成牧場を盛り立てていけるような協議を期待している。